

カトリック

広島教区報

No. 76

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

広島市中区鞆町4-42
広島司教館内
TEL (082) 221-6017

二重のよろこび

カトリック広島司教区長

三末 篤實 司教

復活祭のおよろこびを 申し上げます。

聖書にありますように「主キリストは復活された」のです。全世界のカトリック教会にとっては、この上ない大きなよろこびであり、救いの希望、保証でもあります。

聖書に「週の初めの日の朝方、婦人たちが準備された香料（当時の慣習にならい）をもって墓に行った。しかしキリストの遺体は見当たらなかった。そこへ輝く衣を来た二人がそばに現われて言った。なぜ生きておられる方を死者の中に探すのか！あの方はここにはおられない、復活なさったのだ。」（ルカ二十四・一一）と記されています、これがすべてです。キリストは予



猪口神学生、三末司教、トゥアン神学生

言の通り、十字架の苦しみを経て三日目に復活なさいました。自らの予言を実現されたのです。私たち人間の知恵では全く悟ることのできない大きな神秘、奥義です。神のお示しとお恵みによってのみ、その実現を受けとめることができま

す。キリストの復活は私たちの人生の終わりに約束された保証でもあります。私たちは、それぞれに残

朗読奉仕者選任式を 終えて

終えて

去る三月二十三日（月）の午後、教区神学生の二人が、世界平和記念聖堂において、めでたく選任式を受けることができました。お二人には、皆さまと共に心からおよろこび申し上げます。これらすべては神のお恵みです。私たちは先ず神に感謝を捧げましょう。そして共によろこびお祝いしたいと思えます。

キリストは「刈り入れは多いが働く人が少ない。働く人を遣わしてください」と言われております。

これはみんなに命じられたおことばです。一人でも

(二面へ続く)

御復活おめでとうございます

広島教区長
司教総代理

三末 篤實 司教
斉藤 眞仁 神父

教区本部事務局

原田 豊己 神父

平和の使徒推進本部事務局

肥塚 倅司 神父

広島司教館

野間 重信 神父

(日本語研修)

李 尚潤 神父

(研修)

澤野 耕司 神父

地区長

後藤 正史 神父

鞆町教会

後藤 正史 神父

観音町教会

アルベルト 神父

祇園教会

尾島 紀代治 神父

呉教会

山根 敏身 神父

廿日市教会

長谷川 儀 神父

三篠教会

肥塚 倅司 神父

翠町教会

アルパレス 神父

三原教会

原田 豊己 神父

尾道教会

山口 道晴 神父

福山教会

服部 大介 神父

向原教会 (責任者)

後藤 正史 神父

松江教会

深堀 升治 神父

岡山・鳥取地区

萩 喜代治 神父

地区長

萩 喜代治 神父

岡山教会

豊田 穰 神父

岡山南教会

豊田 高臣 神父

西大寺集会所

瀧井 英昭 神父

橋灯センター

野中 泉 神父

笠岡教会

野中 泉 神父

倉敷地域共同宣教司牧

ミッシェル スメット 神父

倉敷・玉島・水島教会

レネ ジェロム 神父

山口・島根地区

パトリス 神父

地区長

佐々木良晴 神父

山口修道院

佐々木良晴 神父

百瀬 文晃 神父

高橋 義博 神父

山口教会

加藤 信也 神父

防府教会

カンガス 神父

萩教会

西山 和男 神父

岩国教会

小崎 次郎 神父

周南地域チームミニストリー

恩地 誠 神父

徳山・下松・光・柳井教会

パリュヌエボ 神父

宇部小野田ブロックチームミニストリー

アルテイリョ 神父

宇部・北若山・高千帆教会

モラーレス 神父

下関ブロックチームミニストリー

中村 健三 神父

細江・彦島・長府教会

オレギ 神父

下関労働教育センター

アレックス 神父

出雲教会

三喜田虎太 神父

津和野教会

アルカラ 神父

浜田教会

李 相源 神父

益田教会

リントホルスト 神父

長束修道院

田丸 篤 神父

林 尚志 神父

薄田 昇 神父

木村 信行 神父

葉袋 勝士 神父

モレノ 神父

山根 敏身 神父

瀬戸 勝介 神父

ラフオント 神父

近藤 信 神父

裏辻 洋二 神父

三宅 秀和 神父

河村 剛修道士

ベルタニヨリオ 神父

ベニテズ 神父

マクガレル 神父

ヘンゼラー 神父

李 聖一 神父

松田 敏洋 神父

松島 忠雄 神父

清水 弘 神父

塚田 健統 神父

牛尾 幸生 神父

ロサド 修道士

オンデリクス 修道士

ホンテレー 修道士

牧田 真一 修道士

愛徳修道士会

庚午修道院

鞆町修道院

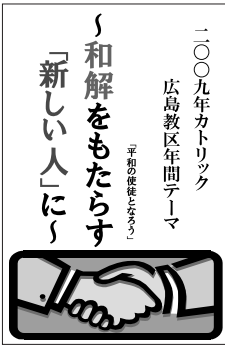
愛徳修道士会

(二面の続き)

多くの方が主の呼びかけにこたえますようにお祈りし、努力いたしましょう。久しぶりに選任式を行うことができましたのは神のお恵みは申すまでもなく、ご家族の皆さまのご協力とご支援さらに沢山の皆さま

年間テーマを、祈りと行動のうちに深めよう！
平和の使徒推進本部より

広島教区の皆さま、今年の年間テーマには、昨年の一八八殉教者、とりわけ広島教区の五人の殉教者の列福の恵みを、これからの広島教区の宣教司牧活動にどのように具現していくかという課題と、「パウロ年」が意識されています。「新しい人」と「和解」がキーワードです。



《祈りの助けとして》

テーマを深めていくため

ま方のお祈りとご支援があったからです。

私は広島教区の責任者として全ての皆さまへ感謝をおさげし、敬意を表します。まだ今後の歩みがありますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。選任式を受けた二人の神

に、みことば(聖書)と二人の著作からの引用を取り上げました。すでに各小教区に配信いたしました。個人、共同体の祈り、また分かち合いの糧としていただければ幸いです。

I. 聖書より

(1) 福音書から ① マタイ五・五② マタイ五・二十三③ ルカ六・二十七④ マタイ七・一⑤ ヨハネ十三・三十四⑥ 三十五

(2) パウロの手紙から ① ロマ十二・十② コリ五・十七③ エフエ二・十四④ コロ三・十二⑤ 一五

(3) パウロの手紙にみる「新しい人」 ① コロ三・九② 一五

学生は次の通りです。

(一) ヨハネ グエン・クアン・トゥアン 神学生 (ベトナム出身)
(二) マキシミリアーノ・マリア・コルベ 猪口大記神学生(鳥取出身)
司祭叙階までには、祭壇奉仕者の選任式と助祭および

六・四③ ロマ七・六④ エフェ四・二十三⑤ 二四⑥ コリ四・十六

II. その他の文献より

① 「新しい人」の方(ほう)へ」大江健三郎著 朝日文庫 二〇〇七年十月三十一日第一刷発行 「新しい人」になるほかない3 (P. 百九十八～二百二)

② 「主のよき力に守られて」ボンヘツファー 一日一章」村椿嘉信訳 新教出版社 二〇〇一年十一月十日第一版第一刷発行 敵のただ中で平和の使徒として

《行動の助けとして》

四つの推進チームからは、この年間テーマを生かすための具体的提案がされています。各自、各小教

び司祭叙階式が残されています。まだ数年の準備が必要ですが、どうぞ皆さま、これからも二人のために祈りとお協力・ご支援をよろしくお願ひ申し上げます。復活祭にあたって皆さまの上に神の豊かな祝福をお祈りいたします。

区、そして各地区で、祈りと行動という二つの側面から年間テーマに取り組んでみてはいかがでしょう。

『平和推進チーム』

《広島へ》◆八月(五日・六日)は、みんなで(教会で、グループで、個人で)広島に集い、祈りましょう。

《分かち合い》◆各教会で、ミサ後、一度は、特に身近なところで社会的な活動、和解の働きをされている人の話しを聞き、分かち合ひましょう。

《平和の心》◆「平和アピール一九八一」ヨハネ・パウロ二世のメッセージを学び、伝えていきましょう。

う。憲法第九条についての分かち合いも、おそれず進めていきましょう。

《体を動かす》◆それぞれの地域で行われている福祉活動、奉仕活動に積極的に関わっていきましょう。

『きょうどう推進チーム』 二〇一〇年に『三地区合同宣教司牧評議会(仮称)』を開催する予定で準備しています。開催の目的は、「きょうどう」をキーワードとし、広島教区の未来像を頭に描きながら子供たちの信仰教育、ひとりひとりの召命について考えることを中心とした内容を検討中です。

《具体的推進内容》

① 例えば「自分たちの教会に子供たちの姿は見えますか?」といった問いかけに対し、将来、教会を担う子供たちを育てていくことが、教区民全員の共通の課題であるとして捉え、教区民一人ひとりが共に考えていけるような具体的内容を推進する。

② 教区練成会、中プロ、日韓キャンプなど、青少年の信仰養成プログラムへの積極的参加の呼び掛けとサポートを推進する。

また、子供を持つ親や、

子供たちと接するリーダーたちのネットワーク作りを推進する。

③引き続き、小教区、地区における現状の問題や課題について、その実態を共有できる仕組み作りを推進する。

『養成推進チーム』

一・教会から離れている家族（学生、青年たち）と日曜日には、家庭で機会をとらえて対話につとめる。

二・ゆるしの秘跡を積極的に受け、人と和解し、自分とも和解する。三・家庭を、信仰を伝える場とする。親が祈る。親がミサに与る。

ともに祈れるならばさらによい。その姿を子どもは見えて育つ。四・家族が食事とともにし、世界の飢えている子どもたちを思い、感謝の祈りをする。五・出会う人に努めて笑顔で「こんにちは」「ありがとう」を言う。六・病人を訪問するチームをつくる。七・教会に来られない信者とのつながりを持ち続ける。八・キリストの出会いである人々との日々のお会いを大切にす

る。九・花を植え、空を見

る。自然の美しさを、愛で夢や理想を求めて働く。十・貧しく差別された人が、心身の疲れをとり、元気になるように支援する。

十一・紛争は、武力では解決できないことを、子どもたちに教える。十二・NPOや国際ボランティアの活動に関心を持ち、応援する。十三・アジア、アフリカの貧しい国々の子どもたちの状況に目を向ける。十

四・差別の助長や環境破壊に加担していないかを見極め、困窮している人々にキリスト者としてどんな援助ができるか、そのために私たちの生活をどう変えたらいいかを考え、行動する。

『在住外国人共生推進チーム』◆インターナショナルミサの実施

◎ひとつのミサに、多国籍の人たちが参加し、それぞれの国のことばで、歌、朗読、共同祈願などを行う。

◎いろいろな国、特にアジアにおいて、日本が関わった過去の歴史を振り返り、『和解のミサ』を行う。◆

多文化共生社会へ向かって

(四面へ続く)

列福感謝ミサ

五人の福者の誕生を感謝

昨年十一月二十四日、ペトロ岐部と百八十七殉教者の列福式において、広島教区で殉教した新しい五人の福者が誕生しました。

◆メルキオール熊谷豊前守 元直（一六〇五年八月十六日、萩で殉教）

◆ダミアン（一六〇五年八月十九日、山口で殉教）

◆フランシスコ遠山甚太郎（一六二四年二月十六日、広島で殉教）

◆マチアス庄原市左衛門（一六二四年二月十七日、広島で殉教）

◆ヨアキム九郎衛門（一六二四年三月八日、広島で殉教）

二月十一日、「列福感謝ミサ」と記念行事が世界平和記念聖堂（広島教区司教座聖堂）で行われました。

広島教区は昨年、「平和の使徒となろうー今、殉教を生きるとは？」をテーマとしてさまざまな取組みを

してきました。

ミサに先立って、その一部の発表がありました。朗読劇（備後ブロック四教会）紙芝居（廿日市教会）殉教者録の朗読（萩教会）ジャンボかるた（山口・島根地区・少年の集い）殉教劇（祇園教会）が披露されました。講話や説教などの堅苦しい雰囲気ではなく、親しみやすく身近に殉教者の生き方に触れることができた」と好評でした。

「列福感謝ミサ」は三末司教の主司式でささげられ六百人以上が参列しました。

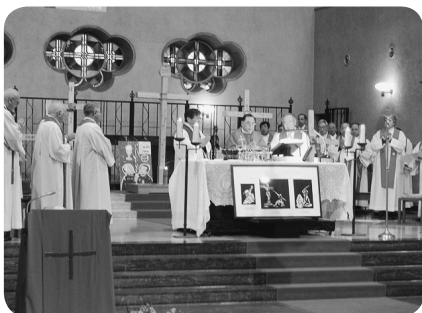
昨年の「教区練成会」（八月、萩教会）に参加した小・中学生が作成した等身大の十字架が入堂行列で運ばれ、また奉納のささげもこのとして祭壇上に立てられました。

五人の福者は、司祭が常駐していなかった迫害時代に、「慈悲役」・リーダーとして信仰共同体に奉仕し支えた人々でした。そのこと

を象徴的に表現するために、教区内の各地区・ブロックから四人の信徒が当日のミサのために「聖体奉仕者」に任命され奉仕しました。

ミサ中、教区民によって作詞作曲された聖歌が三曲歌われました（入祭の歌「広島教区殉教者賛歌」三上夕子、拝領の歌「恵みの風に帆をはって」向井雅治、閉祭の歌「マルティル、あかしびとよ！」シスター山本紀久代）。

午前中には、「広島キリスト教殉教碑」から世界平和記念聖堂まで徒歩巡礼が行われました。古来の公道であった西国街道を辿り、殉教者にゆかりのある広島城で迫害時代（寛永年間）の古地図を閲覧しました。



(三面の続き)

◎小教区に集う、国籍、言語、文化の異なる人々が、相互理解、共生を深める機会を持つ。(料理教室、親睦パーティー、日本語教室、文化の暮らしの紹介など)

紙面の関係で、省略しての掲載となりました。全文をご希望の方はご遠慮なく推進本部Sr.山本(〇八二二二二一―六六一三)までご連絡ください。

司教叙階記念と司祭・修道者の金祝・銀祝のお祝い

六月十四日(日)三末篤實司教叙階二十四周年記念と司祭・修道者の金祝・銀祝のお祝いが岡山教会で行われる。時間は十四時から予定。

金 祝

ブラザー

・イエズス会
Br.ロサド・マヌエル
一九五九年十月二十九日
入会

シスター

・援助修道会
Sr.住田絹江
一九五九年二月二日
初誓願

・援助マリア修道会
Sr.上田靖子
一九五九年八月十三日
着衣

・ナミユール・ノートルダム修道女会
Sr.崎村幸代
一九五九年九月八日
入会

銀 祝

司 祭

・広島教区
Fr.山口道晴
一九八四年四月二十五日
叙階
・イエズス会
Fr.三宅秀和
一九八四年三月十七日
叙階

シスター

・福音の光修道会
Sr.尾仁良子
一九八四年七月十五日
初誓願



広島教区司祭人事異動

イエズス会関係

新任地 ← 前任地

父路門 神父	教区外 ← 防府教会 (2008年12月より)
外川 直見 神父	教区外 ← 長束修道院
松村 信也 神父	教区外 ← 山口教会 (主任)
松井 紀直 神父	教区外 ← 祇園教会
加藤 信也 神父	山口教会 (主任) ← 東京教区麴町教会
薬袋 勝士 修士	津和野教会 ← 東京・岐部修道院
デ・ヴァルス 神父	長束修道院 ← 京都教区彦根教会
小崎 次郎 神父	防府教会 (主任) ← 細江教会
李 相源 神父	彦島教会に併せて細江教会担当下関ブロック・モデラートル ← 彦島教会
モラレス 神父	周南地域チームミニストリーのメンバー徳山教会居住 ← 萩教会
中村 健三 神父	周南チームミニストリーの徳山、下松両教会担当 ← 長府教会
西山 和男 神父	山口教会 (助任) ← 高千帆教会
恩地 誠 神父	萩教会 (主任) ← 周南地域チームミニストリー
田丸 篤 神父	下関ブロック・チームミニストリーの長府教会担当 ← 山口教会
アレックス 神父	宇部教会に併せて高千帆教会担当 ← 宇部教会担当

淳心会関係

新任地 ← 前任地

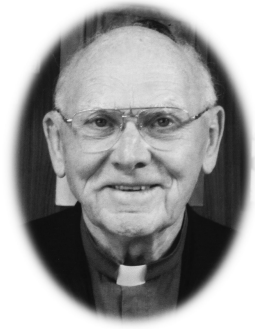
スメット 神父	教区外 ← 笠岡教会 (主任) (2009年5月11日より)
---------	--------------------------------

広島教区司祭関係

新任地 ← 前任地

萩 喜代治 神父	岡山教会共同宣教司牧チームモデラートル・地区長に併せて笠岡教会 (責任者) ← 岡山教会宣教司牧チームモデラートル・地区長 (2009年5月11日より)
服部 大介 神父	福山教会 (主任)に併せて笠岡教会 (担当) ← 福山教会 (主任) (2009年5月11日より)
姜 祐顕 神父	釜山教区 ← 松江教会 (協力) (2008年12月より)

さ よ う な ら



【スメット神父】

広島教区での三十七年の
宣教師牧に今幕を閉じる

この度、永年司祭として
聖務にたずさわってまいり
ました広島教区を離れるに
当たって、司教様をはじめ
め、親交を深めてくださっ
た神父様方、また数え切れ
ないほど多くの友人となっ
た信徒の皆さまに心から感
謝の言葉を申し上げたいと
思います。

今を去る一九六〇年、現
在満九十六歳になられて、
仁豊野ヴィラにおいて介護
を受けておられるヴァン・
アッセ神父様が主任司祭だ
った頃、私は岡山教会に参
りました。この先輩神父様
から宣教師生活のノウハウ
を学び、その指導の下に働
き始めました。私はこの時

期決定的な影響を受けまし
た。ありがたく感謝してい
ます。岡山、水島、また岡
山と最後は笠岡で働きまし
たが、いつの間にか広島教
区での三十七年間の年月が
流れました。(その間、大
阪、東京でも働きました。)

岡山は、気候も人々も温暖
で、とても働きやすく、仕
事に手ごたえがあり、受洗
者も多く、信徒は増えまし
た。この信徒の多くは親し
い友人となって、今でも私
と親しいつながりを保って
います。

広島教区在任中、記憶に
残っていることは多くあり
ます。教皇ヨハネ・パウロ
二世の広島のご訪問、三末
司教の叙階式、教区創立八
十周年、代表者会議、そし
て最近教区の活性化の場と
なっている、平和の使徒と
なるうぐのプログラムも。
これは広島教区が生きてい
る証しですばらしいです。
私は常にパウロの足跡を
歩もうと志していましたの
で、パウロ年はとても気に

入りました。一方パウロは
キリストを伝えずにはおれ
なくて、いたるところに出
かけて宣教しました。(「福
音を告げ知らせない私は不
幸だ」一コリント九・十
六)このパウロはキリスト
受け入れた信徒のことを常
に案じていました。そこで
まず人をキリストの元へ案
内し、さらに引き継いで彼
らの信仰心を支え強めるこ
とが広島教区の宣教師とし
ての務めだと思うのが私の
心のすべてでした。ある
日、宣教師司牧評議会の終わ
りに私は会議の評価を求め
られました。「宣教十パー
セント、司牧九十パーセン
ト」と私は答えました。私
の宣教師の心は双方とも五
十パーセントでなければ賛
成することができないから
でした。

今教区を去るときが参り
ましたが、私の心は広島教
区を思い、その繁栄をひた
すら祈っております。広島
教区がとこしえに栄えます
ように。

〈スメット神父様、本当
に有難うございました〉

よ う こ そ



【加藤信也神父】

聖フランシスコ・ザビエ
ルゆかりの山口で司牧に携
わることは、大きな喜び

復活祭後、山口教会に赴
任いたします加藤信也と申
します。どうぞ、よろしく
お願いいたします。

私はイエズス会の会員で
すが、修練院が広島市長東
にあった関係で、以前二年
間ほど広島教区内で過ごし
たことがあります。それは
ちょうど、三末司教様が司
教叙階された年であったと
記憶しています。

私は一九九七年に司祭に
叙階された後、東京の麹町
教会へ助任司祭として派遣
され、十年ほど司牧に携わ
りました。そして、麹町教
会を出るのは今回が初めて
となります。

聖フランシスコ・ザビエ
ルゆかりの地山口で司牧に
携わることは、私にとって大
きな喜びです。聖人が示され
た宣教への熱意に学びなが
ら、皆様と共に歩んでいきたく
と思います。どうぞよろし
くお願いいたします。

〈こちらこそどうぞよろし
くお願いします〉

日本JOC六十年

今年二〇〇九年は、
カトリック青年労働者連
盟(日本JOC) 創立六
十周年を迎える年です。

日本JOCでは、記
念行事の開催、過去の
資料や経験者の回想な
どを集めています。

広島教区内での窓口
は、レネ神父(水島J
OC/倉敷教会) また
は竹内(広島JOC/
広島信望愛学園)です。
詳しくは、ホームペー
ジ (<http://www.jcw.jp/hiroshima/>) を御
覧ください。

地区便り

山口・島根地区

《出雲教会で

7ステップの祈り》

三月八日四旬節黙想会で地区の「みことばの分かち合い」出前研修会を実施した。参加者から以下の声が聞かれた。

- ・深く自分の心に語りかける時間をもてた。
- ・イエズス様を身近に感じた。
- ・七ステップは初めてで祈りの雰囲気の中で分かち合いができた。
- ・裸になって「みことば」と向き合い、皆さんと祈る「同じ時」を持てた。
- ・難しくなく、単純で、未信



7ステップの祈り（出雲教会）

者の方も誘えると思った。短時間であったが、信徒が一つになった。「キリストを中心にした」共同体として歩む養成の一歩となる研修会となった。

《信者養成研修予定》

『宗像研修会』

講師・百瀬文晃神父（第一回 五月十六日）

『祈りの体験』（新規開講）

講師・ラフォント神父（第一回 四月二十五日）

岡山・鳥取地区

《トピックス》炊き出し、感動の日々》

私たち岡山野宿生活者を支える会は二〇〇二年プロテスタント牧師により越冬支援活動として始まり、〇五年からは岡山カトリック教会を拠点に毎週日曜と年末年始の毎日を炊き出しと生活用具・医療補助の提供、火曜と木曜は自立のための懇談会や人生哲学教室を行っています。今まで約四十名の方に社会自立の道を開きました。最近是小教

区の研修で、また信者でない沢山の市民ボランティアが参加され、無くてはならない活動となっています。最近の派遣・期間社員のおびたらしい雇い止め以来、路上には新顔の方が増えマスコミからは幾度も取材を受けました。市民からは山のような物資提供と献金、元日には香川から炊き出し現場へわざわざ来られ名も告げず大金をカンパし、「居ても立っても居られませんでした」という心暖まる言葉を耳にしました。私たちにとっても魂が揺り動かされる体験でした。

《行事予定》

五月十日 第一回地区宣教司牧評議会（津山教会）

五月三十一日 デイエゴ喜齋記念芳賀巡礼

六月二十二～二十四日 沖繩平和巡礼

六月二十八日 岡山空襲追悼レクイエムコンサート（岡山教会）

毎月第四日曜日 「地区現代世界講座」（イエスと非暴力、第三の道）通読、岡山教会）

海峡からの風 14

下関労働教育センターだより

●偽装パスポートでフィリピンから日本に不法入国し、長女のカルデロン・の子を残して両親が国外退去処分になりました。●この問題で、子どもが可愛そうという声や、法律は遵守されないといけないという声もあり、様々な賛否が出ています。●人権を考えてきたセンターも無関心ではおられません。日本の「子どもの権利条約」批准に伴い、この条約でどのような権利が子どもに保障されたのかを学ぶ会がセンターで開かれた歴史があるからです。●今回のカルデロン一家の問題では「第九条（親からの分離禁止と分離のための手続き）一締約国は、子どもが親の意思に反して親から分離されないことを確保する。」という部分が争点になるのですが、日本はこの条項を「解釈宣言」としました。要するに「この部分は守らなくてもいいことにする」として

いるのです。これに対して、国連は解釈宣言を撤回するよう求めています。日本の人権度が問われているのです。●法律は社会のルールなので守らなくてはなりません、大切なのはその法律が正しいのか？という視点です。今回の例でも両親は不法入国をしました。が外国人登録をし、納税もし、子どもの教育義務も果たしています。蕨市議会は三人の在留特別許可を求める意見書を全会一致で可決しました。●原告敗訴が続いた公害訴訟も、粘り強い運動によって法が変わっていききました。最近では国籍法も改正されました。「人権」意識も長い歴史の中で子どもも一個の人格をもった権利主体と捉えられてきたのです。実は「法律」は社会への積極的な取り組みによって高次なものに変わっていくのです。●イエズスの法によって社会を復活させるのも大切な使徒職だと思えます。

（細江教会・廣崎隆一）

J-CARM 広島便り

外国人移住者に対する

社会使徒職の新たなチャレンジ

Sr. マリア・カルメン・セゴビア(イエスス孝女会)

「三月七日、私は日本で初めて、あるフィリピン女性の裁判の様子を見に行きました。彼女には通訳がついていましたが、私の友人たちはフィリピン女性の言いたいことが伝わらなかつたと不満でした。」

今日、移住者に対する社会使徒職は新たなチャレンジを受けています。これをどう引き受けていけばいいのでしょうか。

私たちがフィリピン人のために働きはじめたのは、当時、教会にフィリピン人信徒が増えてきたからという事でした。彼らは信仰から、第二の故郷と慕って教会にやってきたのです。しかし、日本語の壁は大きく、彼らは行き場を失ってしまいました。私たちは彼らのために英語のミサを計画し、必要なカウンセリングを始めました。その後、種々の典礼や黙想会、要理

教育なども始めました。数年の間に多くの人たちが結婚し、家庭を持ちました。そこで今度は、特に洗礼、堅信、初聖体などの秘跡の準備に活動が向けられました。

この二年間に、松江でフィリピン人の組織である「The Matsue Pinoy Kapibisig」が島根県から認可を受け二百万円の支援を受けました。行政と連携して「語学力向上による活性化 Empowerment through Literacy」というプログラムがスタートしました。このプログラムでは会員たちに無料で、パソコン操作の初歩講座や、日本語の授業、異文化間での結婚や育児のセミナーを行いました。

時を同じくして、日本人と結婚しているフィリピン人の間の家庭内暴力事件が増加していました。そこで

NGOとの繋がりを作るだけでなく、シエルターへの移動を助けるグループも作られました。グループの人たちは、弁護士との通訳や裁判での通訳として手助けしました。カウンセリグサービスが行われ、被害者への事後の世話も重視されています。

最近、刑務所での社会使徒職が必要になってきました。移住者に対する社会使徒職では、社会が成長し変わっていくにつれて、新たな状況に対しその都度必要なチャレンジが求められるという事を、私たちは経験しました。

そこで最初の質問に戻ります。私たちは移住者のために教会で何ができるでしょうか。新しいチャレンジにどう対応してゆけるでしょうか。

(日本語翻訳 ボニー・ジエームズ、柳田敏洋)



広島教区の施設 ③

岡山・鳥取地区センター

岡山・鳥取地区センターは、九十四年六月、岡山教会の敷地内にある建物の一室に開設されました。現在は、岡山カトリックセンターの二階に事務所があります。〇八年に地区のマスケットキャラクター「つぎも太郎」が誕生しました。これは、岡山県の桃太郎と鳥取県の因幡の白うさぎのイメージでデザインされました。両県が一つの地区として交流を深めていけるようにという願いがこめられています。

岡山・鳥取地区センターは、九十四年六月、岡山教会の敷地内にある建物の一室に開設されました。現在は、岡山カトリックセンターの二階に事務所があります。〇八年に地区のマスケットキャラクター「つぎも太郎」が誕生しました。これは、岡山県の桃太郎と鳥取県の因幡の白うさぎのイメージでデザインされました。両県が一つの地区として交流を深めていけるようにという願いがこめられています。

岡山・鳥取地区センターは、九十四年六月、岡山教会の敷地内にある建物の一室に開設されました。現在は、岡山カトリックセンターの二階に事務所があります。〇八年に地区のマスケットキャラクター「つぎも太郎」が誕生しました。これは、岡山県の桃太郎と鳥取県の因幡の白うさぎのイメージでデザインされました。両県が一つの地区として交流を深めていけるようにという願いがこめられています。

岡山・鳥取地区センターは、九十四年六月、岡山教会の敷地内にある建物の一室に開設されました。現在は、岡山カトリックセンターの二階に事務所があります。〇八年に地区のマスケットキャラクター「つぎも太郎」が誕生しました。これは、岡山県の桃太郎と鳥取県の因幡の白うさぎのイメージでデザインされました。両県が一つの地区として交流を深めていけるようにという願いがこめられています。

岡山・鳥取地区センターは、九十四年六月、岡山教会の敷地内にある建物の一室に開設されました。現在は、岡山カトリックセンターの二階に事務所があります。〇八年に地区のマスケットキャラクター「つぎも太郎」が誕生しました。これは、岡山県の桃太郎と鳥取県の因幡の白うさぎのイメージでデザインされました。両県が一つの地区として交流を深めていけるようにという願いがこめられています。

岡山・鳥取地区センターは、九十四年六月、岡山教会の敷地内にある建物の一室に開設されました。現在は、岡山カトリックセンターの二階に事務所があります。〇八年に地区のマスケットキャラクター「つぎも太郎」が誕生しました。これは、岡山県の桃太郎と鳥取県の因幡の白うさぎのイメージでデザインされました。両県が一つの地区として交流を深めていけるようにという願いがこめられています。

岡山・鳥取地区センターは、九十四年六月、岡山教会の敷地内にある建物の一室に開設されました。現在は、岡山カトリックセンターの二階に事務所があります。〇八年に地区のマスケットキャラクター「つぎも太郎」が誕生しました。これは、岡山県の桃太郎と鳥取県の因幡の白うさぎのイメージでデザインされました。両県が一つの地区として交流を深めていけるようにという願いがこめられています。

岡山・鳥取地区センターは、九十四年六月、岡山教会の敷地内にある建物の一室に開設されました。現在は、岡山カトリックセンターの二階に事務所があります。〇八年に地区のマスケットキャラクター「つぎも太郎」が誕生しました。これは、岡山県の桃太郎と鳥取県の因幡の白うさぎのイメージでデザインされました。両県が一つの地区として交流を深めていけるようにという願いがこめられています。

岡山・鳥取地区センターは、九十四年六月、岡山教会の敷地内にある建物の一室に開設されました。現在は、岡山カトリックセンターの二階に事務所があります。〇八年に地区のマスケットキャラクター「つぎも太郎」が誕生しました。これは、岡山県の桃太郎と鳥取県の因幡の白うさぎのイメージでデザインされました。両県が一つの地区として交流を深めていけるようにという願いがこめられています。

岡山・鳥取地区センターは、九十四年六月、岡山教会の敷地内にある建物の一室に開設されました。現在は、岡山カトリックセンターの二階に事務所があります。〇八年に地区のマスケットキャラクター「つぎも太郎」が誕生しました。これは、岡山県の桃太郎と鳥取県の因幡の白うさぎのイメージでデザインされました。両県が一つの地区として交流を深めていけるようにという願いがこめられています。

岡山・鳥取地区センターは、九十四年六月、岡山教会の敷地内にある建物の一室に開設されました。現在は、岡山カトリックセンターの二階に事務所があります。〇八年に地区のマスケットキャラクター「つぎも太郎」が誕生しました。これは、岡山県の桃太郎と鳥取県の因幡の白うさぎのイメージでデザインされました。両県が一つの地区として交流を深めていけるようにという願いがこめられています。

岡山・鳥取地区センターは、九十四年六月、岡山教会の敷地内にある建物の一室に開設されました。現在は、岡山カトリックセンターの二階に事務所があります。〇八年に地区のマスケットキャラクター「つぎも太郎」が誕生しました。これは、岡山県の桃太郎と鳥取県の因幡の白うさぎのイメージでデザインされました。両県が一つの地区として交流を深めていけるようにという願いがこめられています。



カトリック岡山・鳥取地区

岡山・鳥取地区センターは、九十四年六月、岡山教会の敷地内にある建物の一室に開設されました。現在は、岡山カトリックセンターの二階に事務所があります。〇八年に地区のマスケットキャラクター「つぎも太郎」が誕生しました。これは、岡山県の桃太郎と鳥取県の因幡の白うさぎのイメージでデザインされました。両県が一つの地区として交流を深めていけるようにという願いがこめられています。

青少年の活動

中プロ 身近な何かに気付こう

三月二十七日から三泊四日の日程で、第四十三回国プロックカトリック高校生大会が開催されました。今回の会場は、広島学院。教区内また四国から、中学三年生から高校三年生ま

で、八十四名が集まりました。今回のテーマは、「身近な何かに気付こう〜幸せ・出会い・個性・愛〜」。サブテーマごとに二つのグループがあり、各々体験学習や分かち合いなどを通して、改めて自分の身近なところを見つめなおす時間を過ごしました。中プロの醍醐味はなんといっても人と出会い、絆を結び、それを育んでいく喜びを肌で知

ること。参加者たちは三泊四日の体験の中で、旧交を温め、たくさんの新しい友達と思い出に力づけられて、四月から新しい生活へと旅立っていきま



青少年情報センターより

四月から、広島教区青少年情報センターの職員が変わります。新しい職員は、大谷紗由里（幟町教会）・岸井拓也（幟町教会）の二名です。青少年情報センターは、現在、五月の青年大会、八月の平和行事、九月のネットワーキングミーティングなどに向け、教区の青年

青年大会のお知らせ

テーマは、「未来の教会3〜子日く〜」。私たちの身近な聖書のことばとキリスト教、そして論語と儒教、各々の「ことば」に焦点をあてて考えてみましょう。
日時…五月九日、十日
場所…呉教会
対象…青年（十八歳以上高校生不可）
参加費…二千元
申込・問合せ…青少年情報センター



「神の国」の気づき

イエズス会司祭

柳田 敏洋

最近、私なりにイエスの伝えた「神の国」というものが分かるようになってきた。しかし、それは仏教のヴィパッサナー瞑想を通じてである。神の国とは、イエスの「空の鳥を見よ、野の花を見よ」という教えに示されるよう

に、どんな存在でもあるがまさに神によつて肯定され、人はその肯定によつてエゴから解放され、無償の愛と責任を生きるようになるという世界である。ヴィパッサナー瞑想は、それを、意識を感覚に集中させ、通常伴う快・不快という心の反応を脇に置いて感覚があるがままに受けとめる、という気づきの瞑想修行によつて体得

しようとする。この瞑想法をインドで体験することで、私は神の国の働きが今ここにありと気づくようになった。瞑想が深まると感覚があるがままに受けとめる穏やかで自由な心が現れてくるのを体験したからである。

とところで最近まで一つの疑問があった。それは、元来ミヤンマーの上座部仏教で伝えられてきたヴィパッサナー瞑想が、現在の軍事独裁政権に対しなぜ解放の力とならないのか、ということであった。しかし、ミヤンマーで僧院生活を体験したアラン・クレメンツの

上関町の離島、祝島に行った。家と家とが肩寄せあって建つような懐かしい町並み、私有地が生活道として提供されている。この道を「仁義道」というらしい。昭和の名残り。(み)

